



# 元気とタイムリーな情報を提供する 五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2021年02月01日 第1005号「週刊五十嵐レポート」

## ハードワークが会社を発展

小さな会社は常に苦戦する。社長は情熱や向上心が必要であると言われる。その現れが労働時間に反映する。以前イタリア企業視察をしたとき、イタリア人経営者がやたら「パッション(情熱)」ということを言っていた。それで聞いてみた、「パッションを証明するしたら、どのくらい働いているのか」と。そうすると「土日も働いている」と。あのイタリアでもトップは長時間労働する。

カレーのCOCO壱番屋の創業者宗次氏は、「経営者はいくら長時間労働しても労働基準監督署から一切指導を受けません。これは経営者の特権」と。宗次流の社長実務時間は年間4,380時間(12時間/日×365日)。

ランチエスター経営では、社長の実力=仕事時間<sup>2</sup>×質。強い商品作りや特定市場で一番を作ることは多くのエネルギーが必要。それには仕事時間を拡大しなければならない。質を高めるには大量の研究時間が必要。よって業績を良くするには、まず社長の仕事時間を拡大すること。つまり長時間。

経営を学び始めた社長は、「起業したときから長時間(14時間/日)やってきた。そこは間違っていなかったんだ。親や周りの人はなんでそんなにまで働くのかと言われた。私だけなのかと悩んだこともあった。著名な経営者も長時間労働してたんだ。安心した」。

ドラッカーは、「成果を上げる者は仕事からスタートしない。時間からスタートする。時間を管理すべく、時間に対する非生産的な要求を退ける。そして得られた自由な時間を大きくまとめる」と言っている。何に自分の時間が取られているかを知り、残された時間を体系的に管理する。

経営を4, 5年勉強した社長は、多くの時間を取りているルーチンワークは、手順書を作り、スタッフに移行した。おかげで自分の時間が作れるようになった。成果を上げられる自社の強みに力を集中することができるようになった。

成果を上げるには、まずは時間を拡大させること。(やる必要のない仕事、成果に結びつかない仕事は切り捨てる。人に任せていれば仕事は部下や外注に任せた)。大きな自由な時間を確保する。量稽古して「質」を高めていく。

リモートワークなどで働き方が問われている。基本は時間に対する考え方。

ちょっと  
出来事

1月28日付日経新聞によると、オーストラリアのシンクタンク、ロウイ研究所は98ヶ国・地域の新型コロナウイルス対策の有効性を数値化して順位を発表。

国・地域別ではニュージーランド(94.4)がトップ。2位はベトナム(90.8)。3位台湾(86.4)。4位タイ。5位キプロス。6位ルワンダ。7位アイスランド。8位オーストラリア。9位ラトビア。10位スリランカ。11位エストニア。12位ウルグアイ。13位シンガポール。14位マルタ。15位トーゴ。16位マレーシア。17位フィンランド。18位ノルウェー。19位リトアニア。20位韓国(69.4)。

ちなみに日本は45位(50.1)。米国は94位(17.3)。中国は公開情報が入手できず、集計から除外。

一般に強権体制の方が、民主主義体制よりも私権を制限しやすく、対策も比較的容易だとみられていたが、この調査では裏付けられなかった。

人口規模では、1千万人未満の「小」国・地域は56.5。「中」(1千万~1億人)は47.2。「大」(1億人超)は31.7。小>中>大、小さい国・地域の方がコロナ対策に効果を發揮した。小回り、周知徹底がしやすいのでしょうか。企業も同じですね。変化の時や非常時には「小」が強い。



一口メモ  
知識

## 慈しみの心を育てる

ブッダは「瞬間でも慈しみの心を育てなさい。それだけでも立派だ」と説かれました。

けれども、私たちは何もしないでほっておいたら、慈悲の心は生まれてこないです。

慈悲は自然に生まれるものではありません。

生命は本来エゴのかたまりなのです。

だから、無理してでも慈しみの心を育てなくてはならないのです。

一切の生命に対して、慈悲の心が生まれてくると、自分のエゴの殻が破れます。

「ブッダの教え一日一話」(PHP研究所/アルボムッレ・スマナサーラ)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時

●「戦略社長塾東京」小岩校 土曜隔週(第2・第4) 午後2時~6時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

株式会社五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051 東京都江戸川区北小岩6-21-5

Tel 03-3659-7703 Fax 03-3659-7077 info@igarashireport.com

